

j-プログラム 論文

カタカナ語について

名前：呉依桐

大学：中国海南大学

学部名：社会情報学部

学籍番号：1368007

- 1 はじめに
- 2 先行研究
 - (1)カタカナ語とは何か
 - (2)カタカナ語が多用される理由
 - (3)カタカナ語について様々な声
- 3 カタカナ語のずれ
 - (1)本来の言葉から発音のうえで、「ずれ」のあるカタカナ語
 - (2)意味や用法が本来の言葉からずれたカタカナ語
 - (3)和製英語
- 4 大学生のカタカナ語の意識調査
 - (1)調査の目的
 - (2)結果の予想
 - (3)調査の実施
 - (4)調査の結果
- 5 まとめ
- 6 終わりに

1 はじめに

最近、新聞やテレビにおいて分かりにくいカタカナ語が多用されており、商店街でもカタカナ語の看板が多い。日本語の意味がわからないと訴える人が増えている。このような悩みに対して、社会では様々な声が上がっている。

国立国語研究所「外来語」委員会では、2003年4月、「第一回「外来語」言い換える提案—分かりにくい外来語を分かりやすくするための言葉遣いの工夫」という提案を発表した。その一方、最近の若者、特に大学生は、非常にカタカナ語を多用する。カタカナ語以外の日本語の表現があるのに、わざとカタカナ語を使う人が少なくない。大学で日本人の友達と話す時、よくカタカナ語を耳にするため、私は日本語か「変」な英語かとよくわからなかった。

カタカナ語とは、欧米言語からカタカナで表記される外来語と「和製英語」のことである。「和製英語」とは英語にはない言葉であるのに、あたかも英語のように考えられて日本人によって創造された言葉のことである。すなわち、「日本製」の外来語と言えるだろう。

現代の日本では、中学から本格的に英語を勉強し始めるというカリキュラムがある。小学校から英語教室に行く学生も少なくないという。それでも、日本人は自分の英語力に自信がないとされている。カタカナ語の中で、本来の英語と発音と意味が異なる言葉がおおい。カタカナ語を使い慣れると、英語を話す時に、和製英語を使う場合があるかもしれないと私は考える。それでは、英語力とカタカナ語の多用に何か関係があるのだろうか。私はこの点に興味を持ち始めた。

群馬大学での一年間では、日本人の学生は外国人と話す時に、カタカナ語をよく使う気がする。日本語学習者の私にとって、カタカナ語以外の日本語よりカタカナ語のほうが非常に分かりにくい。しかも、カタカナ語を勉強することも他より更に工夫しなければならない。同じ意見を持っている他の国の留学生も非常に多い。

それでは、なぜ大学生はカタカナ語を多用するのだろうか。カタカナ語をよく使うことは英語力にどのような影響を与えるのだろうか。大学生はカタカナ語についてどのような考え方を持っているのだろうか。これらの問題を解決するために、私は「大学生のカタカナ語について」を論文のテーマとして据えることにした。

2 先行研究

(1) カタカナ語とは何か

カタカナ語の定義は調べてみたが、確定された定義がみつからなかった。鳥飼玖美子の「カタカナ語に見る意味のずれ」によると、「最近、英語を中心とする外来語が急速に増えてきたためカタカナ表記が目立つようになり、「カタカナ語」という呼称が定着してきている。」という。すなわち、カタカナ語はカタカナで表記される日本語のことを指す。具体的に、カタカナで表記される場合は主に三つがある。第一は欧米から取り入れ、カタカナで表記される外来語のことである。例えば、コミュニケーションなどである。漢語も外来語といえるが、漢字で表記されるため、カタカナ語とはいえない。第二は和製用語のことである。和製用語の中で、最も多いのは和製英語。例えば、サラリーマンなどである。第三は元々は和語であるが、特別な意味がある時や特別な気持ちを表す時、注意してほしい時に、わざとカタカナで転換する言葉のことである。例えば、カワカワなどである。

本稿のいうカタカナ語は、第三種類のカタカナ語以外のカタカナ語である。すなわち、欧米から取り入れた外来語と和製英語のことを指す。

(2) カタカナ語が多用される理由

最近、カタカナ語が多用されているという意見が挙げられた。理由は主に三つある。

まず、日本人特有の英語に対する「憧れ」があるからである。英語を話す「カッコいい」と思う人が少なくない。彼らは日常生活では意識的に日本語を使わず、同じ意味の外来語を言い換えているという。インターネットの発展により、人々は、特に若者たちは、以前より多くの外国の影響を受け、英語に対する信仰も強くなっていく。従って、彼らはその信仰が自然に外来語に移し、よく外来語を使っていると言われる。

次に、加熱する英語教育と密接な関係があるからである。現代の日本では、中学から本格的に英語を勉強し始めるというカリキュラムがある。小学から英語教室に行く生徒が非常に多い。厳しい受験戦争に負けないよう、高い英語力を持っていなければならないと考える人が増えてきた。常に外来語を使うこと

は英語の習得に役に立つと思う人が増えるにつれ、外来語がよく使われるようになってきた。

また、官庁や役所の公用文にも難しいカタカナ語がよく見られ、新聞やテレビなどでも分かりにくい外来語が次から次へと出てくる。また、企業や商店も消費者にアピールする際に、わざと外来語を使っている。

(3)カタカナ語について様々な声

筑波大学教授の津田幸男はカタカナ語の氾濫は日本語の威信と誇りにかかる問題で、「言語法」で日本語を守れという意見がある。彼は「」では以下のように述べている。

「英語を使ったらかっこいい」といい、日本人特有の英語信仰があります。日本語を下に見て、自分たちの言葉の威厳を自らおとしめています……「言語法」の制定を検討すべきです。ことばについても日本語の威信と地位を守る「日本語保護法」などの法律が必要だと考えます。

また、「フランス語の未来」協会の創設に参加したアルベール・サロンは『過剰な英語化、無味乾燥』という意見も注目すべきだと思う。母国語を守るからこそ、国家の独立を守ることに繋がると信じているという。

3 カタカナ語のずれ

先行研究では、私は研究社の『カタカナ英語辞書』を読んだ。厳密に言えば、すべてのカタカナ語がその本来の言葉からずれているという指摘がある。なぜかという、原因は三つあるという。第一に、英語から取り入れ、発音が必ず日本式に転化してしまう。第二に、カタカナ語は本来の言葉と比べて、その意味が狭まる。またはより広い意味を持つものもある。第三に日本語独自の意味や用法を持つようになった語と、日本人が勝手に作った和製英語とがある。

カタカナ語が変わっているというのは、主に発音、意味と和製英語である三つの方面から言える。

(1)本来の言葉から発音のうえで、「ずれ」のあるカタカナ語

①発音がかなり転化している。例：ツリー tree [tri:]

②元の英語を綴じ字読みするなど 誤った読み方をした。例：グローブ

glove[glʌv]

③元の英語では同一の発音の語が、カタカナ語では2ついじょうに異なる発音になり、それぞれの意味も異なるものとなった語。例：ストライキ（罷業）
ストライク（野球用語） **strike**

④元の英語では異なる発音をする二つ以上の語が、カタカナ語では同一の発音で使われる場合。例：ライト

right[raɪt]と **light** [laɪt]の2語がカタカナ語では同音の「ライト」になっている。

(2)意味や用法が本来の言葉からずれたカタカナ語

①元の言葉の意味よりも狭い意味になる語

カタカナ語の多くは、英語の意味範囲の一部岳を用いている。

例：ストーブ 英語の **stove** は暖房器具というよりも、調理用のコンロやレンジをさす。

②元の英語の意味よりも広い意味になる語いわゆる日本語だけの意味

例：サービス 日本では、商売で、値段をひいたりおまけをつけたりして、客に利益を与えることも表す。英語では **service** はそのような意味がない。

③元の英語の意味が転化したり、誤用されたりして、カタカナ語独自の意味が生じる。

例：カンニング 英語の **cunning** は「ずるい」ことをいう。カタカナ語の「カンニング」は試験の時に「ずる」をすること、すなわち不正行為をいう。

(3)和製英語

和製英語とは、英語からの借用らしくみえるが、実は英語の単語を変形、また、複合させて、日本で作った語。すなわち、実際は英語にはない言葉、あたかも英語のように考えられて日本で使われている。

例： ナイター **night+er** → **nighter**
 サラリーマン **salary+man** → **salaryman**

4 大学生のカタカナ語の意識調査

(1) 調査の目的

カタカナ語は本来の言葉と発音や意味がずれている場合もよくあるため、そのまま使うと変だと感じるのではないだろうか。英語を勉強しながら、カタカナ語をよくつかうと、ごちゃまぜにする可能性があるのだろうか。日本人だけでなく、外国人とのコミュニケーションの障害になるだろうか。そのため、カタカナ語愛用者の大学生にカタカナ語の意識調査を行った。

(2) 結果の予想

1 大学生はカタカナ語以外の日本語の表現がある場合でもカタカナ語のほうをよく使う。

2 カタカナ語が多用される理由は知的な感じを表すことができると思う学生が多い。

3 外国人の話す時に、よくカタカナ語を使う理由は、外国人には分かりやすいと思うからである。

4 カタカナ語に慣れているので、カタカナ語が変わっていることにあまり気付かない大学生が多い。

5 カタカナ語の多用は正しい英語を学ぶ妨げになると思う学生が多い。

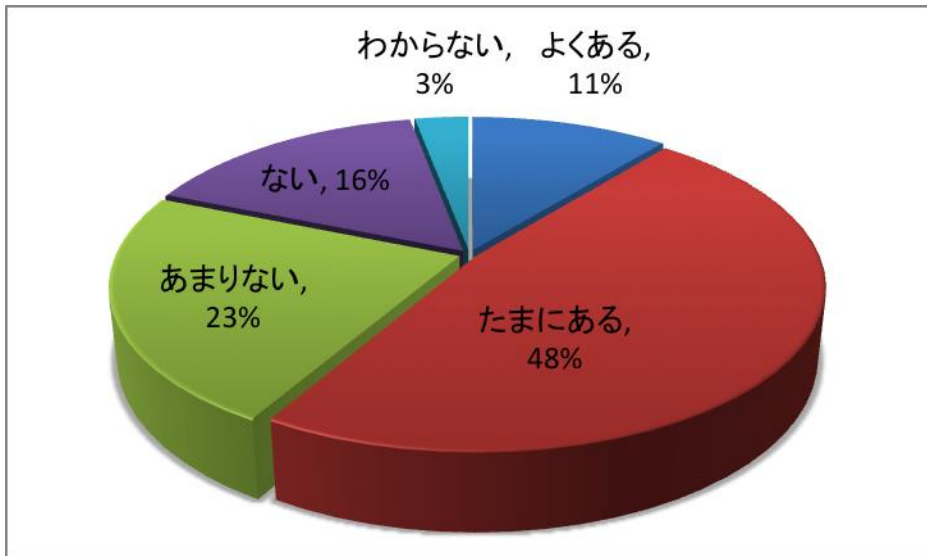
(3) 調査の実施

2014年7月23日群馬大学の学部一年生を対象として、カタカナ語意識についてアンケート調査を行った。回収回答数は111件で、中に有効回答数は100件である。アンケートは主に18の問題があり、普通の選択問題以外に、数多くの言葉の中で、要求によって、いくつか言葉を選ぶ問題もある。

(4) 調査の結果

ここで、以下の6つの問題とその結果を取り上げたい。

1. Q 日本人が普段使っているカタカナ語が変だと感じることがありますか？



2. Q カタカナ語を使うと、相手にわかりやすいと思いますか？
 →相手は外国人の場合は、7割以上の回答者は、分かりやすいと思わない

1. 本来の外国語の意味がずれているカタカナ語

→ 元来の英語の意味がずれることが分からず、日本語の意味として英語を使う可能性が高い

2. Q カタカナ語のよいところ

- 1 話を通じやすく便利である (48%)
- 2 露骨な表現を和らげる効果がある (34%)
- 3 これまでになかった物事や考え方を表すことができる (33%)
- 4 知的な感じを表すことができる (32%)

3. Q カタカナ語の悪いところ

- 1 相手によって話を通じなくなる (79%)
- 2 誤解や意味の取り違えがおこる (77%)
- 3 正しい英語を学ぶ妨げになる (66%)

4. Q 英語を使う時、和製英語を使ってしまうことがありますか？

→ 47%回答者「時々ある」23%回答者「どちらとも言えない」

5 まとめ

調査の結果から、私は以下の考えがある。

多くの学生は日常生活ではよくカタカナ語を使うと答えた。また。同じ意味

のカタカナ語とカタカナ語以外の言葉をよく使うのを選ぶ問題の結果から、80%以上の学生はカタカナ語の方が愛用している。私の予想1「大学生はカタカナ語以外の日本語の表現がある場合もカタカナのほうがよく使う。」は正しいと言えるだろう。大学生がカタカナ語を愛用しているということが更に確かめた。

日本人が普段使っているカタカナ語が変だと感じることもあると尋ねたところ、48%の学生は「たまにある」と答えた。その理由が「意味が本来の言葉とずれている」という意見を持っている学生が最も多い。意味が本来の言葉とずれているため、時にカタカナ語が変だと思う学生が多いが、質問17の結果から、多くの学生が具体的にどちらの言葉の意味がずれているか分からないことが推測できる。「ウエット」「モーニングサービス」「ドライ」「サービス」「ジュース」「トランプ」などのカタカナ語に対して、80%以下の学生は意味がずれていると思わなかった。「スマート」以下の意味がずれているカタカナ語14個には、分かる学生は半分未満である。従って、元来の英語の意味がずれていることが分からず、日本語の意味として英語を使う可能性が高いと私は思っている。

英語を使う時、和製英語を使ってしまうことがあるかと尋ねたところ、半分弱の学生は時々あると答え、23%の学生は「どちらとも言えない」と答えた。和製英語は英語として使うと、正しい英語を学ぶ妨げになると思う。20個の言葉の中で、13個は和製英語を選ぶ問題の結果から、大学生の和製英語の理解率が低いことが分かった。「ノウハウ」という和製英語ではないカタカナ語は84%の学生は和製英語だと思う。8個の和製英語の理解率は半分以下である。「和製英語と英語が分けて使うことができると答え、正解率が高くない人も多い。そのため、大学生にとって、和製英語と英語がきちんと分かることが、簡単ではないと思う。

日本人にはカタカナ語が分かりやすく、外国人には分かりにくいと思う大学生が多い。この点は、私の予想からはずれた。結果をまとめる時、問題の設定と順番はよくないことに気付いた。少し変えていたら、結果は全く違うかもしれない。例え、「問7 あなたは、外国人と話す時、カタカナ語を使うと、相手にわかりやすいと思いますか？ 1 わかりやすい 2 まあわかりやすい 3 どちらとも言えない 4 あまりわかりやすすくない 5 わかりにくい」という問題の前に、「あなたは、外国人と話す時、どのような日本語をよく使う？ 1 カ

タカナ語 2カタカナ語以外の日本語 3両方とも 4どちらとも言えない 5「分からない」という問題を聞くほうが現在の結果より正しい結果を出ることができるかもしれない。

和製英語と英語を分けることができない大学生が多く、本来の意味とずれているカタカナ語がよく分からない大学生も多いので、カタカナ語をよく使うと、正しい英語を学ぶことに消極的な影響があると思う。そのため、私の予想5は正しいと言ってもいいだろう。

6 終わりに

カタカナ語が新しい概念を取り入れ、日本語の表現を豊にすることは注目すべきだ。場合によって、カタカナ語を使うと、ぼかしの効果がある。普通の日本語より、カタカナ語を使うことで、事実が曖昧にぼかされ、明るく軽く聞こえることがあるという。例えば、「介護」と言うと、いかにも辛く暗いが、「ケア」と言ってみると、深刻さが消え、おしゃれな感じになる。

確かに、カタカナ語のよい点にも注目すべきだと思うが、カタカナ語の多用はコミュニケーションと英語の勉強によくない影響をもたらす。調査の結果から、多くに大学生はカタカナ語の本来の意味が分からず、カタカナ語の意味で英語を使う場合も多い。カタカナ語をよく使うと、英語の発音もよくできないに間違いない。

「リスク」「ケア」「トラブル」「コンシェルジュ」など、テレビ番組で理解できない外来語が多く使用されていることで精神的苦痛を負ったため、岐阜県の男性がNHKに141万円の慰謝料を求める訴えを名古屋地裁に起こしたという。テレビ、新聞などにおける分かりにくいカタカナ語が多用されるに従って、「カタカナ語難民」という人の数が増えている。言葉の最も重要な役割はコミュニケーションである。言葉遣いは、他人へ、特に高齢者への十分な配慮をしなければならない。

また、カタカナ語とカタカナ語以外の日本語のバランスも注意すべきだ。大学生だけでなく、より多い日本人に日本語自身の美しさと洗練さを認めさせる工夫をしなければならない。

一方、日本語の学習者にとって、氾濫したカタカナ語は日本語の勉強に一層難しくすると言えるだろう。カタカナ語を話す時、発音がかなり変え、違和感があるのではないだろうか。日本語そのものの魅力を感じたため、日本語を勉

強し始めた人が少なくないと思う。彼らにとって、カタカナ語が次第に増えていくと、日本語自体の魅力が薄くなっていくかもしれない。

個人的には、国立国語研究所「外来語」委員会の「第一回「外来語」言い換え提案-分かりニック以外来語をわかりやくすするための言葉遣いの工夫-」の実施を支持する。もちろん、外来語の使用を制限することはすべての外来語を廃止すべきということではない。定着率が高い言葉、例えば、コンピューター、コミュニケーションなどはそのまま使っても問題がないと思う。また、日本語で言い換えられない言葉は、外来語を使うことで、日本語の表現を豊かにすることができ、これまで日本になかった概念を取り入れることができる。要するに、日本語の権威を失わないと同時に、ある程度新しい外来語を取り込むことがよいのではないだろうか。外来語を取り込む場合は、国民に理解してもらう工夫が必要だと思う。前に述べた「言い換え」提案は外来語の定着率の高さによる分類し、それぞれ具体的な取り扱いを挙げている。この「言い換え」提案を実施できれば、日本語がより規制化されることが期待できるだろう。